

C 五郎沼と嶋の堂千手観音

五郎沼の歴史と自然

C② 800年の眠りから覚めた大輪

五郎沼には、平成 14 年（2002）5 月 28 日に中尊寺から株分けされたハスが植栽されている。この種子は、昭和 25 年（1950）、朝日新聞学術文化事業団による藤原氏四代の遺体学術調査で、中尊寺金色堂に納められていた泰衡の首級桶から発見された。この調査は、考古・歴史・美術・宗教・人類学・医学・理化学など、16 名の学界権威によって行われた学際的な調査である。

発見された種子は、ハス博士といわれた植物学担当の故大賀一郎博士（当時：関東学院大学教授）に託された。大賀博士は、ハス池として知られる上野不忍池の復興に尽力したほか、千葉県検見川遺跡（現：東京大学検見川総合運動場）から約 2000 年前のハスの実を発見し、発芽に成功している。このハスは、「検見川の大賀蓮」として千葉県指定天然記念物となっている。

ハスの発芽研究は、大賀博士の他界で中断した。種子は中尊寺に返還され、^{さんこうどう}讚衡蔵に保存されていた。その後、数十年の時が経過した。中尊寺では再度、種子の発芽を大賀博士門下の長島時子氏（現：恵泉女学園短期大学名誉教授）に依頼した。平成 5 年（1993）に発芽に成功し、同 10 年（1998）に開花した。

このハスは和蓮の一種で、中尊寺ではこのハスを「中尊寺ハス」と命名した。平成 13 年（2001）に中尊寺大池跡の発掘調査でハスの種子が発見された。この種子も平成 17 年（2005）に長嶋時子氏が開花に成功し、「大池ハス」と命名された。中尊寺には大池ハスが中尊寺ハスと並んで咲いている。

中尊寺ハスの実の長寿の大きな要因は、実の果皮の構造と金色堂、棺内及び密閉度の高い首級桶の三重構造の中に納められていたことから、外部環境に影響されなかったと考えられている（長島時子「800 年前のハス（中尊寺ハス）の開花」『恵泉女学園短期大学園芸生活学科研究紀要』Vol.32）。

平泉藤原氏四代の遺体学術調査は、昭和 25 年（1950）に実施されているが、近世期に少なくとも 3～4 回内見され、その概要が仙台藩の公式記録である『獅山公治家記録』に記録されている（森嘉兵衛「中尊寺遺体の文献的考証」『森嘉兵衛著作集』第 1 巻 法政大学出版社）。